

徳島阿南3年目 - 1998年

いよいよ徳島へ来て3年目に入りました。今年になって、すでに論文7つほど出版することができました。この間、2つ3つ良いことも起こりました。まず第一は、この4月から9月まで徳島大学医療技術短期大学の「[数学I](#)」の非常勤講師になったことです。これは、すでに全過程を終了し、9月中旬に最終講義と学会後に期末試験を終えました。成績評価もすでに終わりました。この授業は、できる限り本格的な数学の考え方と知識を可能な限り初歩から大学レベルまで教えることを目的にしました。その点、学生たちにとって授業についてくることはかなりたいへんであったことと思います。その内容は日本の4年制大学の学部学生のおよそ2年分に当たります。これを半年たった13回の講義でやり遂げるのですから、教えるほうのこちらもたいへんでした。毎回、2時間の講義のために、週20時間を要しました。金銭的にはまったく割りの合わない話でしたが、それなりに楽しい時間を過ごすことができました。アンケートを最後に取ったところ、学生達は、アメリカスタイルの授業をたいへん満喫し、付いてゆくのがとてもたいへんだったようです。

第二は、この夏に山梨の実家へ行き、維作、条蒔の二人を私の両親や和明夫婦に見せることができたことです。このときの様子をホームビデオに取ったので、後でビデオカセットテープにとって両親に送ったところ、たいへん好評でした。



第三は、昨年までの私の分数排他統計に関する研究に対して、三菱財団から多額の研究助成を受けることができたことです。これで、私の研究設備を一新できるので、たいへん助かりそうです。

三菱財団の助成金授与式は、9月17日にありました。式典には、理研の理事長から文部大臣になった、有馬朗人氏も来賓として出席しました。厚生大臣の代理に方もいました。彼のスピーチはなかなか面白く、形式ばった祝辞のあと、アドリブでいくつか重要なコメントをしました。1つめは、「大学の研究者は政治をやらず、研究と教育に徹しろ」ということ。2つめは、「健康に留意しろ」ということ。これはかつて私が理研時代に基礎科学特別研究員の成果発表会の際、添付した文書「[基礎科学特別研究員制度の利点と問題点](#)」(やかつて彼に理研時代直接手渡した私の本「[三セクター分立の概念：日本社会の構造的問題とその解決の方向](#)」)で私が主張したこととたいへん良く似ていて、どこかで聞いたことのある話だと思い、大臣になってたいへん彼も変わったなと私は驚きました。有馬氏同様に、審査委員長の江橋氏もたいへんよい審査講評をしました。特に、「科学助成というものは、申請者の所属や外圧から無関係に、個人の研究能力とテーマに関して純粋にアカデミックな立場から研究助成すべ

きである」といいました。江橋氏のこの意見は、かねてから私の主張してきた意見「[インターネット時代の研究と研究助成の在り方](#)」を代弁してくれるものでした。当然私はこの論文を助成応募の際添付しましたので、彼の寸評にも驚かされました。おそらく、こういう高い資質と見識を持った「人物」が審査員に多くいたことが、私が助成金を得られた理由でしょう。まったくラッキーでした。

有馬氏は式典の間ほんの数十分間、2人のボディガードに守られて貴賓席に座っていました。自分の祝辞が終わると付き添っていた、2人のボディガードに挟まれて式典の途中に帰りました。その帰るときに、おもむろに私の背後から、「おい、がんばれよ！」と私の背中をたたいていったのには、私は驚きました。というより、余りに突然の事でそこにいたみんなが驚いたのです。本当は、いろいろ意見したかったのですが、そこで彼とまとまった話をする時間はまったくありませんでした。(阿南に戻った後で、財団の事務に電話したとき、事務の人から、「大臣がお帰りになるとき、あなたの肩をおたたきになられたように見えますが、あなたは大臣とお知り合いですか？」と聞かれたのには、また驚かされました。私は、「理研で研究推進費に応募したときに、彼の前で発表し、そして落選したことがあるので、それで知っていたのではないのでしょうか」と答えました。)式典も終わり、懇親会になりましたが、その直前、つかつかと江橋氏が近付いてきて、「審査員の間では、あなたが一人話題を独占しましたよ」と声をかけてくれました。どういう意味かは私には分かりませんでした。好意的であったのだらうと思いました。その後、審査員の一人から、東大の教授をすでに退官されていた、植村氏を紹介していただきました。私とは、住む世界があまりに異なるので、私は特に話すこともなく、聞き役に回りました。そのうち、たいへんお腹がすいていたので、料理に目がくらみました。料理は大変素晴らしく、私は牛肉ソテーばかり食べていました。たいへん楽しかったです。関係者の皆さんどうもありがとうございました。またいつかお会いしましょう。

(1998年11月5日)



第29回 三菱財団自然科学研究助成金贈呈式記念
平成10年9月17日 於 三菱クラブ

APS 100年祭

いよいよ徳島へ来て4年目に入りました。この1999年はアメリカ物理学会が創立されて100年になります。それで、この年の3月にアメリカ物理学会100年祭が開催されました。昨年、私は三菱

財団自然科学研究助成が得られたのですが、そのおかげでちょうどこの記念すべき学会に参加できました。

アメリカ物理学会はアトランタのジョージア国際コンgresセンターで行われました。この今世紀を記念する国際学会に私は家族をつれて参加しました。まず初日に百年祭を記念する大掛かりな晩さん会がありました。これは本当に立派なものでした。会が始まる前皆がロビーで待っている間、様々なワインとリキュールとおつまみが提供され、それらを肴に何人もの人たちと歓談することが出来ました。我が家は子連れだったため、珍しかったのか、皆気軽に声をかけてくれました。この間に多くのノベル賞受賞者の姿も見ることが出来ました。多くのアメリカの学者たちもこの日は着飾ってタキシード姿でした。まるでアカデミー賞受賞式を見ているようでした。しかし、残念ながら、私の見た範囲では日本人物理学者の姿は非常に少なかったように思います。

我が家は正面のステージからはずっと後ろの方の最後尾のテーブルでした。そこには若手の大学院生やポストドクや企業の研究者が同席していました。我が息子達も英語のかわされるテーブルにつき、一流のフランス料理を前に、その食欲を一気に披露しました（私は最後のデザートで出た生クリーム付きのアイスクリームの生クリームであたってしまい、その番はたいへんな目に会いました）。食事も終わり、講演会が始まると若いポストドクはすぐに最前列に行き、自分達を売り込みに行きました。こんなところにもアメリカの若手の積極性を感じました。

私の講演は、4月22日のEC16-10で「Haldane液体」の話をしました。2つめは4月24日のSC31-13で「タンパク質折れ畳みの玩具模型」の話をしました。前者の時には、会場にHaldane氏らしき姿も見えたので、どんな反響が来るのか楽しみにしていましたが、実際は私の話がちょうど御前最後の昼食前だったために、多くの人々が退席してしまい、あまり多くの人には聞いてくれませんでした。一方、後者は、アメリカの主要なタンパク質研究者のグループがたくさん参加していて、大盛況の中で講演をすることが出来ました。アメリカで初めて会った古賀さんによると、結構良い反響だったということです。しかし、もっと練習しておけば良かったとか。

この間、あまり人の話は聞けなかったのですが、アメリカ物理学会の「職探し」システムは非常にうまくやっていると感じました。ポストドクなどの職を得たい人は参加したらすぐに登録し、自分の宿泊先とインタビュー可能日と時刻のスケジュールを掲示板に掲示してもらいます。一方、職を提供し、良い研究者を得たい側も登録し、同様の事をします。そして、せっかくの学会時期にお互いが時間を無駄にしないようにして、どんどんアポイントメントをとって最良の職探しをします。また、この事務を地元の大学生などがアルバイトするという訳です。まさしく、ジョブマ-ケットという感じです。私も試しに登録しましたが、まったくだれも連絡してくれませんでした。しかし、そのシステムチックなやり方にはたいへん強い印象を受けました。

もう一つは、アメリカ物理学会の「商売上手」でした。APSの間、その100年祭記念グッズやさまざまな科学道具や玩具やT-シャツやマグカップなどを売っていました。そしてこれが結構売れているのでした。いついっても満員でした。こうやって、結構な財源を獲得するのだなと思いました。それにくらべると、日本物理学会は、昼食時の弁当販売くらいで、やはり本気で学会経営を考えているようには見えません。どうしても、公務員的、官僚的な世間慣れしていない、子供っぽいやり方に見えてします。APSからもっと学ぶべきでしょう。

APSの後、我が家は5日ほどユタ大学へ立ち寄り、ビルサザーランドさんと再会できました。彼と昼食をいっしょにとったり、ホテルで議論したり、大学の近くの美術館を見学したり、オリエンタルフ-ド店へ行ったり、毎日本当に楽しい日々を送ることが出来ました。ユタ大学留学中の友人日高潤君とも会うことが出来ました。皆元気で、特に変わった様子はありませんでした。2000年のSLC冬期オリンピックのために街のあっちこっちで道路工事があると聞いていたのですが、それほどでもありませんでした。ハワイへ行く前に飛行機の日程上3月31日にロサンゼルスで一泊しました。この日の午後に時間があつたので、ユニバーサルスタジオへ立ち寄りました。たいへん面白かったのと、日本人が多かったこと、そして東京ディズニーランドと違い、アメリカの職員は皆親切だったことには驚きました。おかげで、閉館直前の5時に到着した我々も、主要なもの全部見て回ることが出来ました。本当に感謝します。

そして最後に、ハワイの義理の姉のところを立ち寄りました。それは最近の航空会社のサービス向上のため、うまくルートを取ると、航空運賃にほとんど差がないからです。今回は、義理の姉のフィアンセの車で、オアフ島一周ができ、たいへん良い度が出来ました。オアフ島という小さな島でも、東西南

北でまったく気候が異なること（東が乾燥地でサボテンのある砂漠地，北が風が強く，涼しく気候の良い住みやすい土地，西が湿潤で雨の多い森林の土地，そして南が暑い観光地）など，地球物理学的に見ても面白そうなことがいっぱいありました．

この旅行の写真は[アメリカ旅行](#)にあります．

(2000年2月12日)．

[もっと前](#) [もっと後](#)

[ホームページ](#) [和基](#) [和子](#) [維作](#) [条蒔](#) [家族](#) [Donation](#)

「井口和基博士と家族のホームページ」
〒774-0003 徳島県阿南市畷町新はり70-3
井口和基 (C)2004